

令和2年度事業報告

I 概要

1. 総括

【企画会議】

企画会議は、各専門委員会委員長で構成し、三役が参加し諮問している。委員会間の情報を共有するとともに意思疎通を図り、理事会及び専門委員会の運営が円滑に行われるように取り組んできた。

センターの現状を見ると、令和2年度末の会員数は238名となり、令和元年度末の会員数240名より2名減となった。令和3年2月までは、例年より入会者数も多く、退会者数も少なかったが、年度末になり退会希望者が急増したことが原因として挙げられる。センターが設立して24年を経過し、会員の高年齢化が進み、加齢や病気を理由に退会する会員や、政府の働き方改革の呼びかけにより、定年延長や「60代でも70代でも続けて働く人」が増加し、就職を理由に退会する会員が増えたこともあり、過渡期を迎えていると言える。

一方、シルバー人材センター事業については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年度よりシルバー人材センター事業、労働者派遣事業ともに実績が減少し、目標の1億5千万円には届かなかった。その他、目標とした粗入会率、未就業会員解消、就業機会拡大の各項目についても達成することはできなかった。

就労相談日を毎月第4水曜日にふれあいサロンで実施してきた。年間を通して、会員の就業に関する苦情や悩み、トラブルなどの相談に応じるとともに、一般の高齢者の就労に関する相談や、入会についての問い合わせに対応してきた。周知不足や相談についての抵抗感があることなどから件数は多くないが、定期的に就労相談日を設けて相談に応じる体制を作っていることに意義があるため、継続して実施していく。

毎年1月には企画会議が主体となり、一年の無事故を祈願し「仕事始め式」を開催している。令和3年も感染予防対策を講じながら開催した。例年出席率を高めることが課題となっているが、新型コロナウイルスの感染拡大により参加を自粛した会員も多かったため、参加人数の減少はやむを得ないと思われる。

ワークプラザは、主に手作り加工部つくしんぼなどの独自事業の活動拠点となり、活発に利用されてきた。特に令和2年度は大島作業所の大幅な整備を行ったことで、花卉園芸栽培事業班や製炭事業班が、今後更に活動の幅を拡げることが期待される。また会員が懇親を深め、交歓する集いの会場や伊佐さくら会活動の練習拠点としての位置づけも重要になりつつある。

【事業推進委員会】

令和2年度も、シルバー人材センター事業の効果的な事業推進と会員拡大を目的として取り組んで来たが、新型コロナウイルス感染症感染拡大による影響を大きく受けた一年であった。当委員会では主に、定時総会、行政機関との懇話会、市議会議員との懇話会を計画、実施した。

定時総会は、令和2年5月21日に、感染拡大防止のため、出席人数の制限等、大幅に規模を縮小して開催された。委員会としては、定時総会の計画や運営の一助を担っている。

行政機関との懇話会は、令和2年10月6日に、十分な感染予防対策を講じた上で開催した。伊佐市長及び各課長23名、センター役職員27名が出席し、センターの概要説明と事業内容、会員の活動状況についての意見交換を行った。活発な意見交換を行うことができ、有意義な懇話会を開催することができたと思われる。市議会議員との懇話会は、令和3年2月5日に、こちらも十分な感染予防対策を講じた上で開催した。伊佐市議会16名、センター役職員21名が出席し、センターへの理解をより一層深めるため、事業内容と会員の活動状況等について説明を行い、意見交換を行った。

ただし、行政機関との懇話会、市議会議員との懇話会ともに、親睦を深めるために例年実施していた懇話会終了後の懇親会は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、実施を見合わせた。

苦情があった場合、迅速に対応することに留意しており、発注者に納得してもらう事後処理と、担当した会員への注意喚起等を行い、再発防止に努めている。しかし令和2年度は、就業するに当たっての会員の理解不足と発注者への説明不足により、大きなトラブルが発生した。発注者あつてのセンターであるため、不快な思いをさせるということは残念なことであり、発注者に喜んでいただき、苦情が限りなくゼロに近づくよう取り組んでいく。

利用者アンケートについては、令和2年4月から令和3年3月までの間に、85件の回答があり、仕事の満足度については、満足が78件、普通が5件、不満が1件であった。令和元年度より減少したものの、不満であるという回答があったことは残念な結果であるため、内容を検討のうえ反省すべき点は反省し、今後同じような不満がないよう改善していく。利用回数は約76%が2回目以降であり、誠実な就業が次の発注へ繋がっていくことが回答結果からもうかがえた。

【組織管理委員会】

多くの会員がセンターの基本理念に基づき、地域単位で構成している「地域班」及び職種ごとに構成している「職域班」に属し、自主的、自立的な活動を実践している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防対策に取り組みながら活動を行った。

会員拡大については、会員からの紹介による入会が効果があるため、引き続き「一会員一入会運動」を展開した。今年度の入会説明会は、受講者に対しアンケート調査を実施し、改善に取り組んできた。受講者は42名で、昨年度より2割増加した。入会者数も27名と昨年度より増加し、一定の成果を上げることができた。しかし、会員数については退会者が増えたことにより、昨年度より減少した結果となった。今後も入会説明会等の改善を図りながら、会員拡大に力を入れていきたい。

入会後には、新入会員を対象とした「新入会員研修」を実施し、センターの基本理念、心構えの徹底を図るとともに、会員が守るべき就業時のルール、手順等について説明している。また、一般作業群、技能群、独自事業群を対象に「職域班別会員研修」を実施し、センターの基本的な事項を中心に、苦情事例による問題点の共有や気の緩

みによるミスがないよう注意を促した。

また「役職員独自研修」を8月31日(月)に実施し、対象者87名中72名の出席を得た。質疑応答においては、広報関係や職域班についてなど日頃の疑問点について意見交換が行われた。

6月6日(土)に地区別ボランティア活動(大口:ふれあいセンター周辺、菱刈:菱刈環境改善センター)を行った。また、9月5日(土)は大口小学校において全体ボランティア活動を行い、校舎前の樹木剪定や除草などを行い学校側からも大変喜ばれた。いろいろな技術や道具を駆使して多くの人数が参加するボランティア活動は、伊佐市においても大きな評価を受けており、センターのPRにもなった。

【就業管理委員会】

普及啓発については、新型コロナウイルス感染拡大のため、街頭キャンペーン、行政訪問活動の一部が活動できなかったが、毎月実施する広報活動車による広報活動は継続的に活動することができた。

会員自らの手により毎年実施している『伊佐シルバー祭り』についても、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見合わせた。

その他の活動として『シルバーふれあいショップ』を含めた市内の施設に、入会説明会の日程や各種講習会等を掲示し、地域に情報発信をした。また、普及啓発月間中、全会員によるチラシ配付活動を推進した。今後も地域に情報を継続的に発信しながら、会員拡大の課題に取り組んでいきたい。

『植木剪定スクーリング』については、会員の技術向上や一般市民からの参加もあり、講習会を通じてセンター事業が地域に浸透してきている。

事業実績は、昨年度より就業延人員、契約金額ともに減少した。これは新型コロナウイルスで施設等の閉館や時間短縮によって実績が減少した影響が大きかった。

また、『伊佐まごころ創生事業』及び『高齢者活用・現役世代雇用サポート事業』で配置された就業開拓員並びに事業コーディネーターについては、定期的な就業開拓の活動によりセンター事業の理解及び浸透を図った。

【福祉・家事サービス委員会】

福祉・家事サービス群としては、委員会を中心に一定の活動が行えた。しかし家事援助サービス班としての就業会員が少ないため、引き続き、会員の獲得が緊急の課題である。今後もイベント時等における啓発活動が重要である。また、福祉・家事サービス群の定例活動である「ほほえみ会」の出席率が低迷しており、更なる周知活動が必要である。特に新入会員には入会手続きの時点で「ほほえみ会」についての理解が得られるように工夫しなければならない。

福祉・家事援助サービスについては、主な受注は高齢者家庭の家事援助である。市の包括支援センターや民生委員からの相談を機に就業に至るケースも多い。また長寿介護課の日常生活支援サービス事業や、PR課のふるさと納税返礼品(親孝行支援サービス)による受注もあり、ここから次の受注に繋ぐことで就業機会の拡大になるよう会員の協力が求められる。

「頭の体操教室」は、これまで受講者から大きな支持を受けており、令和2年度も引き続き、読み・書き・計算や、月1回の健康体操・輪投げ・スカットボールを行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教室は毎回アルコール消毒を行い、受講者・サポーターとも体温管理・手指消毒・マスクの着用を徹底して、密に充分配慮しての運営となった。受講者に毎回好評だった園児・児童とのふれあい交流は健康・安全面を考慮し中止とした。受講生がわずかながら減少傾向にあるため、読み書きの内容やレクリエーションに新しいゲームを取り入れるなど工夫して減少を抑えていきたい。

[頭の体操教室受講者実施状況]

実施校区	伊佐市委託事業			
	受講者	修了者	開設日	延受講者数
おおくち	40人	30人	37日	1,029人
ひしかり	21人	19人	37日	595人
やまの	11人	11人	37日	298人
ほんじょう	14人	13人	37日	451人
はつき	20人	20人	37日	610人

介護予防事業については、例年大口地区2回、菱刈地区2回の計4回行ってきたが、5月に開催を予定していた第1回がコロナ禍により中止となり3回開催した。検温・手指消毒・マスクの着用について理解いただき、密に配慮しながらの教室となったが、よい評価を頂くことができた。これからもこの高評価に応えることができるよう、指導にあたる会員の意識の向上と責任が望まれる。

[介護予防事業実施状況]

実施日	実施場所	実施内容	参加状況	
			一般	会員
8月28日(金)	まごし館	輪投げ、介護予防体操、歌	8人	8人
11月27日(金)	こころ館	認知症サポーター養成講座	17人	19人
1月29日(金)	まごし館	スカットボール、健康体操、歌	20人	10人

子育て支援事業は、『放課後児童健全育成事業(児童クラブ)』を軸に、市や学校の協力のもと、十分な感染防止対策を講じながら充実した活動を実施することができた。

講習会については、子育て支援講習会・料理講習会を各々2回ずつ実施し、就業機会の拡大や会員のスキルアップにつながるよい結果が得られたことから、今後も継続して実施していく。

[放課後児童健全育成事業実施状況]

	開設日数	登録児童数	平均利用児童数	延利用児童数
山野児童クラブ	287日	22人	11.7人	3,348人
羽月児童クラブ	287日	38人	11.6人	3,320人

講習会については、子育て支援講習会・料理講習会を各々2回ずつ実施し、就業機会の拡大や会員のスキルアップにつながるよい結果が得られたことから、今後も継続して実施していく。

[講習会実施状況]

講習会	実施日	実施内容	参加状況
料理講習会	7月3日	そうめんの活用方法、夏野菜の料理	14人
	12月4日	お餅を使ったアレンジ料理、冬野菜の料理	8人
子育て支援講習会	9月4日	子どもとどう向き合う 保護者とのコミュニケーション	13人
	2月5日	保健師による感染症予防講座	14人

普及啓発活動については、今年度は市のイベント等がほとんど中止になったため、委員による2回の事業所訪問にとどまったが、訪問箇所を増やして対応した。また会員個々の努力により入会者を集めることが出来た。福祉家事群によるボランティア活動も実施し、啓発活動及び地域貢献に努めた。

【独自事業管理委員会】

独自事業については、センターの特性を活かしながら、会員の自主的就業活動の場として安定した事業を展開してきた。

門松製作事業は、協力しながら作業を進めた結果、売上額は去年を上回った。今後更なる発展のためには、技術の研鑽や材料の確保及び作業段取りの改善等に取り組む必要がある。

しめ縄事業は、技術の研鑽を積みながらの製作であったことから、製作数は昨年より少なかった。今後は、商品の更なる品質向上と併せて、好評だった「丸飾り」に付加価値を付けて量産化を図りたい。

シルバーふれあいショップは、コロナ禍によるイベント等の自粛により、売上額は伸び悩み回復が見通せない。このため、攻めの販売「お客を店に呼び込む」策と魅力あるショップにするため、商品陳列棚設置等の売り場環境の整備に取り組んだ。これからも、お客さん本意のショップを目標に活動したい。

手作り加工部つくしんぼは、コロナ禍により売上が伸び悩んでいたが、販売先の重点化と売れる商品に特価した販売戦略により、売上額は回復しつつある。今後も社会情勢に応じた販売戦略の見直しと強化を行い、お客様のニーズに合った商品の開発と安定的生産に取り組みたい。

ふれあいサロンは、市民の憩いの場として居心地の良い場所であるが、利用者は少数の特定された者に留まっている。これまでも利用者増の策を講じてきたが、好転しないので、今後第三者(専門家)の意見聴取も必要ではと思われる。

上記以外の事業は、概ね順調な活動により、例年並みの取扱数量と売上額であった。総括すると、接客業関連の事業はコロナ禍の影響を受けたが、全体としては、概ね例年並みの実績であった。今後、独自事業の充実と発展を図るためには、就業環境の改善や作業手順のマニュアル化などにより作業の効率化を推進して、独自事業のイメージアップを図り、その効果を後継者育成に繋げていきたい。

【安全委員会】

事業計画に基づき、安全委員会及び安全委員会対策員会議を中心に安全就業の推進に取り組んできました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、救急講習会、交通安全キャンペーン等が中止になったが、その他の講習会は、感染防止対策を十分に講じながら実施した。

安全適正就業強化月間には、就業現地パトロールによる、安全・適正就業に関する指導・助言を行うとともに、安全就業に係る講習会や研修会も積極的に開催し、無事故を目標に会員一丸となって取り組んできたが、傷害事故が8件、物損事故が5件

発生した。加齢による操作能力や運動能力の低下を自覚せず、慣れや過信で行動したため発生した傷害事故が多かった。慌てず落ち着いて行動すること、慣れや不慣れで安易に行動しないことなど常に意識しておく必要がある。

今後も安全委員会が中心となって事故のないセンターを目指し、事故防止へ向けて会員指導を徹底するとともに、コロナ禍での感染防止対策を十分に講じた上で、各種講習会の実施や啓発活動に一層傾注して、全員参加の体制で安全就業に取り組んでいく。

過去5年度間の事故発生件数

事故 年度	発生件数		
	傷害	物損	合計
28年度	4件	12件	16件
29年度	12件	10件	22件
30年度	9件	6件	15件
元年度	5件	10件	15件
2年度	8件	5件	13件

2. 理事会 令和2年度の理事会は、9回開催した。

理事会は、センター業務の運営上必要な事項について、総会に次ぐ議決機関であると同時に、最高の執行機関であるので、センターの発展のため、理事会を中心とした専門委員会活動の充実とセンター運営の統括を図るため、三役会議で各情報を収集し、各委員会へ反映させた。更に、センター事業の変革に対応するため、三役会議・企画会議での十分な協議により、理事会運営の強化も図った。

3. 組織活動

(1) 地域班

今年度も地域班において自主的な会合が開催され、「シルバー伊佐」の配布、会員への連絡事項等、地域班におけるシステムが定着していることは、世話人を中心とした会員の協力体制が充実してきた現れである。今後は、更に一つ上の活動を目指し、全会員の率先した協力による活動が求められる。

(2) 職域班

会員への就業依頼を世話人・班長により行う、自主就業体制に基づく班運営も定着しているが、世話人・班長の努力によるものが大きい。安全面及び後継者育成のため、班長の定年制度が導入されており、今後も会員の率先した協力が求められている。

また、今年度実施した講習会は、次のとおりである。

- ① 職群別会員研修
- ② 新入会員研修
- ③ 機具取扱講習会(刈払機・チェーンソー・トリマ)
- ④ 植木剪定スクーリング

4. 安全就業対策

会員の安全就業は、みんなの願いであり、大切な事項であるため、安全委員会及び対策員会議において、安全就業実施計画書を基に会員の無事故対策が講じられた。

- (1) 安全就業マニュアル・安全就業実施計画書に基づく安全就業の徹底
- (2) 安全就業の日朝礼式及び安全就業現場パトロールの実施
- (3) 交通安全に関する講習会の実施
[交通安全講習会，車両安全運転・点検講習会]
- (4) 安全就業に関する講習会の実施
[刈払機・チェーンソー及びトリマ取扱講習会]

5. 普及啓発関係

就業管理委員会を中心に、役員・会員により次のような活動を行った。

- (1) 行政訪問活動並びに集客場へのパンフレット等の配置
- (2) 行政広報誌による地域への広報（入会説明会・講習会日程等）
- (3) 広報車による啓発活動

6. 福祉・家事援助及び育児支援サービス事業

福祉・家事サービス委員会を中心に、組織的活動としては感染予防対策に努めながら一定の活動が行えた。

しかし、家事援助サービスについては、就業会員が少ないことから、会員獲得が緊急の課題であるため、今後も啓発活動に力を入れていく。

育児支援事業については、市委託事業を中心に様々な事業に取り組んでいるため、今後の活動が期待される。

- (1) シルバーハウジング(高齢者住宅等安心確保事業)の実施
- (2) 頭の体操教室(認知症予防事業)の実施
- (3) 児童クラブ(放課後児童健全育成事業)の実施
- (4) ほほえみ会定例活動の充実
- (5) 講習会の実施[料理講習会，子育て支援講座]

7. 独自事業の展開

独自事業は、会員自らの創意工夫により、趣意を同じくする会員が実施する事業で、就業開拓の大きな位置づけとなるため、独自事業管理委員会を中心に現事業の拡充並びに新規独自事業の研究開拓に取り組んだ。

後継者育成としては、定期的な講習会を開催し、独自事業会員の拡充を図った。

また、独自事業会員の資質向上を図るための研修等も実施した。

- (1) 独自事業実施状況
 - ① 門松製作事業
 - ② しめ縄製作事業

③ 花卉・園芸栽培事業

⑤ シルバーふれあいショップ事業

⑦ 竹ぼうき作り事業

⑨ ふれあいサロン

(2) 講習会等実施状況

① わら細工講習会

④ 製炭事業(木炭・竹炭)

⑥ 刃物研ぎ事業

⑧ 手作り加工部つくしんぼ

② 刃物研ぎ講習会